工学研究科　学位論文に係る評価にあたっての基準

<table>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">博士論文の評価基準（満たすべき水準・審査体制・審査方法・項目等）</td></tr>
<tr><td rowspan="12">工学研究科</td><td>全専攻</td><td colspan="2">＜学位論文として満たすべき基準＞
博士(博士後期)課程ならびに論文博士の学位論文審査は、「工学院大学学位(課程博士)請求論文提出に関する申請手続」あるいは「工学院大学学位(論文博士)請求論文提出に関する申請手続」により、内審査会及び公開発表会、ならびに提出された論文について、以下の基準について評価される。

1 専攻する研究分野において、要求される知識や能力を修得していること
2 問題意識が明確で、課題設定が適切に表現されていること
3 事実調査や先行研究の文献資料などの探索が十分に行われ、適切に検討・吟味されていること
4 研究結果についての整理と解析が十分に行われていること
5 結果に基づく仮説や結論の展開が明確で、論理的であること
6 論文の内容に新規性または重要性があること
7 当該分野の学術の進展や社会への貢献が期待できること
8 研究の実施において、安全への適切な配慮がなされていること
9 研究の公正性が保たれていること</td></tr>
<tr><td>機械工学</td><td>博士（工学）</td><td>博士論文の審査では、機械工学の専門分野の内、エネルギー工学、材料・加工工学、設計工学、計測制御・ロボティクス、システム工学、または他分野を含む複合領域の高度な知識を習得した上で、自ら関連課題を発掘し、研究推進の手段として知識を活用することにより、その解決策を提案し評価する力を有しているかどうかを基に審査する。</td></tr>
<tr><td>化学応用学</td><td>博士（工学）</td><td>博士論文の審査では、生命分野、有機分野、無機・金属分野、環境・システム分野のうち関連する専門領域について最新の知識を有し、関連課題の価値や解決策を評価することができるか、また、関連する学会や産業界の最新の研究・技術について知り、関連課題の価値や解決策を評価する力を有しているかどうかを基に審査する。</td></tr>
<tr><td>電気・電子工学</td><td>博士（工学）</td><td>博士論文の審査では、エネルギー変換分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野のうち複数の分野において高度な専門知識を身につけ、自ら課題を発掘して解くべき問題を分析し、解決する手段を提案し評価できる力を有しているかどうかを審査する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">情報学</td><td>博士（工学）</td><td>博士論文の審査では、社会システム工学、電気電子工学、人間工学、言語学、教育学、心理学およびその関連分野における高度な専門知識を身につけ、情報社会に貢献する研究を行うことができるかどうかを審査する。</td></tr>
<tr><td>博士（情報学）</td><td>博士論文の審査では、情報科学、人間情報学、応用情報学およびその関連分野における高度な専門知識を身につけ、情報社会に貢献する研究を行うことができるかどうかを審査する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">建築学</td><td>博士（工学）</td><td>博士論文の審査では、まちづくり・建築・建築デザインの修士の能力を基礎とした「技術系」の専門分野における先端的かつ高度な知識や、自律的かつ先導的に建築に関わる諸要素を整理・分析する技術、及び高度な研究力を有しているかどうかを基に審査する。</td></tr>
<tr><td>博士（建築学）</td><td>博士論文の審査では、まちづくり・建築・建築デザインの修士の能力を基礎とした「意匠計画系」の専門分野における先端的かつ高度な知識や、自律的かつ先導的に建築空間を計画・デザインする技術及び高度な研究力を有しているかどうかを基に審査する。</td></tr>
</table>